

「語いもんそ」

Vol.7 平成20年9月14日発行

この通信誌は、宝山ホールで活動されているボランティアスタッフによって発行されています。

宝山ホール文化講演会

5月27日(火)

講師 歴史作家 桐野作人先生

薩摩の知られざる逸材・小松帯刀

～大河ドラマ「篤姫」に寄せて～



1回1,500名の募集定員に対して応募者が多く、講演を急遽2回にし、約2,000名のおお客様のご来場がありました。講演は、「おやっとさあです」と出水市出身の桐野先生のかごつま弁でスタート。

小松帯刀は「素直な性格」で「周施力に優れて」天下国家の為に働いた人。小松帯刀の大きな業績は「幕府の大政奉還」。持病の足痛ため「王政復古政変」への不参加、そして西郷・大久保より早く亡くなったため、小松帯刀の知名度は上がらなかったが、「日本之柱」とも呼ばれた小松帯刀の評価はもっと上がってもよい。鹿児島でも大きく知る必要があるなど、小松帯刀の実績を、政治活動と人間性の両面から詳しく解説があり、ご来場のおお客様の感想も、郷土の誇りと思うなど感動・感銘を受けられたようです。

講演終了後『吹上焼酎(株)』様から焼酎「小松帯

刀」を抽選により40名の方へプレゼントというお楽しみもあり、当選された方のお一人は「今日は主人の誕生日でいいプレゼントができました」と大喜びで焼酎を受け取っておられました。



講演後インタビューしました。

埼玉県から来られたかおりさんは、「桐野先生の大ファンで講演があればぜひ聴きに行きたいと思っていました。そしたらブログに今回の講演のことが載っており、聴きたいと思いましたが会場が鹿児島でしたので悩んでいたところ、定員に近づいているとブログにありましたので慌ててハガキを出しました。仕事は3日間の休暇をとりましたが、来てよかった、すごく楽しかったです。」「鹿児島はいいところですね、明日は大河ドラマ『篤姫』の舞台をまわります」と話され、笑顔で宝山ホールを後にされました。

日吉町からご来場された、はつよ・ゆり子さんご姉妹、お姉さんの、はつよさんは「昔、吉利小学校で教師をしている時に、毎週ではありませんが日曜日には、30～40人の生徒達と、小松帯刀さんのお墓参り・清掃によく行きました。大河ドラマ 篤姫 で、小松帯

刀さんが、郷土の偉大な先輩と知り感激しました」
きょうの講演の感想は？

「素晴らしい人物を先輩にもったことを、誇りに思います、子や孫に伝えていきたいですね」と話してくださいました、はつよさんは一段とお若く見えました。

(撮影・記事 広報ボランティア 四十住 孝行)

インタビューしました。

鹿児島市東谷山の山口勝久様

かねてより歴史には関心深く、南日本新聞の先生連載を熟読していますが、この度先生の話の直接拝聴できると参加しました。特に年代、他の方々とのつながり、それに裏話など含めて、くわしく知識が広められ感動いたしました。

鹿児島市内桜ヶ丘の西良徳様

今ブームとなっております、篤姫と共に、小松帯刀は、ある程度は理解していましたが、裏話とか、各諸侯などとの関係など、初めてのことも多くありがとうございました。(取材 広報ボランティア 篠原 正)

ボランティア活動に参加して。

これまでドア管理と受付を体験しましたが、楽しくやらせていただき、ボランティアを引き受けてよかったと実感しています。公演がきめ細かな配慮のもとに運営されている雰囲気は最高です。香り高い文化に触れ、いろいろな風を受け止めながら宝山ホールの一翼を担えることに誇りを感じています。

(取材 広報ボランティアスタッフ 鮫島 尚武)

二代目中村錦之助襲名披露

松竹大歌舞伎

7月27日(日) 昼夜2回公演

初代錦之助は、映画俳優としても有名でしたが、二代目錦之助は、歌舞伎界で継承されていく名跡にしたい、そして奥様が鹿児島市荒田の出身ということもあり、第二の故郷ともいえる、鹿児島で襲名披露ができ

ることを誇りに思うと力強い二代目錦之助襲名披露口上がありました。



公演はイヤホンサービス(有料)で、時代背景・効果音の使い方・登場人物・台詞・いいまわしの意味などの説明が、物語と同時進行で流れ、お客様に大好評でした。



二代目錦之助の奥様は、ロビーでお客様をお迎えし、また記念写真にも、気持ちよく応じておられました。



(中央・・・中村錦之助夫人)

知覧から来られた、看護学生の川野奈緒さんと岩崎陽子さんは、「(日本文化の)授業で歌舞伎のビデオ学習があり、本物を観たいと思い来ましたが、日本の伝統芸能のすばらしさを知りました」と、初めて生で観る歌舞伎に感動されていました。



プログラムもお客様に大変好評でした。

(撮影・記事 広報ボランティア 四十住 孝行)

インタビューしました。

西千石町からお越しの、西小野さんご夫妻は、娘さんから日頃のお礼と感謝で、チケットのプレゼントがあり、ご来場されました。「初めての歌舞伎でしたが、女形の身のこなしが、しなやかで華麗さに驚いた、見事だった」と大変喜んでおられました。

錦江台からお越しの、茶道裏千家の先生 藤川チカ子さんは「京都で先代の踊りを拝見しましたが、二代目の若々しい踊りも格別で若さをいただいたわ」と喜ばれ、期待も大きいようでした。

(取材 広報ボランティア 弓削眞智子)

第29回霧島国際音楽祭

「宝山ホール公演」7月31日(木)

地元根付いた世界的な音楽祭として、29回目を迎え、夏の夜のひとときを豊かな音楽で演出され、満員のお客様も大満足の演奏会になりました。

昨年に引き続き、公募により結成された合唱団「コールみやま」も、田中信昭先生指揮のもと、感動を分かち合う合唱で観客を魅了しました。



ステージに上がる10分前のミーティング。

ミーティングで田中信昭先生は、

「いい音をつくるために、これまで努力してきた、今日は楽しく遊んで下さい。いい音が出ない時は私

が責任とります」という先生の言葉に、合唱団の皆様はリラックスできたようです。全員が笑顔でステージに向かわれました。

インタビューしました。

伊集院高校音楽部に所属し、ファゴットの榮村綾夏さん(2年)とサクスの木佐貫綾さん(2年)のお二人は、「今日聴きにきた目的はホールでの演奏の響き、アンサンブル、息の合わせ方、そして部活でやっている吹奏楽とは違った音楽を学んで、自分達の部活の音作りに生かしたい」と、音楽への意欲に満ちていました。



榮村綾夏さんと木佐貫綾さん

(撮影・記事 広報ボランティア 四十住 孝行)

薬師町から友人といらした、50代のご婦人は、一人ひとりの発声がすばらしく迫力がありました。と「コールみやま」の合唱を大絶賛。

鹿児島高校の合唱部に所属する三人の生徒さんは、「部活指導の片倉先生が出演されるので来ました。

80人近くの人数での合唱は迫力が違いますね、大人の合唱だと思いました」と、感想を述べてくれました。

コールみやまのメンバーのお一人の方は、練習は緊張感もありましたが、とても活気があり楽しくできました。参加してよかったと話してくれた笑顔が印象的でした。

(取材 広報ボランティア 二川 道子)

痛快ロマンティックコメディ

「ウエディング・ママ」公演

8月21日(木)



開演時間前から、お客様は長蛇の列。



公演後のお客様の感想。

鹿児島市内からお友達とご来場された、ご婦人は木の実ナナ・井上順・田中健ほか出演者もテレビ等で馴染みの俳優さんで、ストーリーも単純明快アットホームの内容でわかり易く楽しく観ることができました。と興奮冷めやらぬ感じで会場を後にされました。

公演ボランティアスタッフの1日を追いました。

宝山ホール職員の方々とボランティアスタッフとの全体打合せ後、全員でチラシ折込の作業。お客様に今後の公演をお知らせする、大事な仕事です。職員の方の事前準備がよく1時間余りで終了しました。



各担当毎に、職員の方から細かな指示があります。お客様が、安心・安全・快適に公演を観てもらうためには、欠かせない打合せです。

受付・ドア管理・クローク・警備を担当します。私たちは美しい立ち姿と明るい笑顔でお客様をお迎えます。



ボランティアおごじょクイーンの皆様。



受付の担当は、チケットもぎり・チラシ配布・半券集計・

遅れ客への対応等をします。



公演無時終了、充実した1日だったと笑顔で話すスタッフ。

加藤和子さんは「定年後の社会参加のひとつとしてボランティアを始めました。今日はクロークの担当で緊張しましたが無事終えてよかった」と感想を述べられました。

角百合子さんは、お客様に優しく声をかけながら、座席の案内やドア管理をされ、他のボランティアスタッフもそれぞれが自分の担当を精一杯頑張っていました。（取材 広報ボランティア 山方いき）



かごしま子どもミュージカル

「この花咲くや姫」

12月27日(土)昼夜2回公演

「愛と夢と希望」をテーマに、薩摩の国の神話をモチーフにした子どもだけのミュージカル。宝山ホールオリジナルで、鹿児島のよさを感じる作品です。公募で集まった県内の小中学生100人が4月から練習を始めています。

8月26日

突撃取材



台詞の一つひとつに感情をいれるため、演出の先生は、日常生活の中から具体的に説明し演技指導。そして、「台詞のない人が舞台をつくる」と、いい舞台にするため全員が集中してけいこに励んでいます。



アマテラス役の西之原三奈さん(中2)は、「夢と感動を与えることを目標に家に帰ってからも自主練習は欠かしません」と笑顔で話をしてくれました。

薩摩の神々役の坂下由華さん(小6)は、昨年のワークショップに引き続きの参加。「皆で一つのものを作り上げていくのが楽しい。昨年から成長した私を観てください」と笑顔で語ってくれました。

(撮影・記事 広報ボランティア 四十住 孝行)

宝山ホール広報ボランティア「語りもんそ」編集部
〒892-0816 鹿児島市山下町5-3 宝山ホール
TEL099-223-4221 FAX099-223-2503